

種名	<u>シ ナ イ モ ツ ゴ</u> <u>Pseudorasbora pumila pumila</u> 
分類	コイ科ヒガイ亜科モツゴ属
俗称	ドロコイ・ホソ(宮城)、ツラアワズ(秋田)、メロザッコ(山形)、アブラヤナギ(群馬)、シナイモロコ(別名)
形態的な特徴	形態はモツゴに似るが、本種の方がややずんぐりしていることや、側線が完全か不完全かで判別できる。繁殖期のオスの吻部には追星が現れ、全身が婚姻色で黒くなり、普段見られる黒色縦条は消失する。全長は8cm ほどになる。
分布	日本固有種でかつては東北地方から関東地方にかけて、広く分布していたが、現在は関東地方では絶滅し、新潟・山形・秋田県の一部に生息しているのみである。北海道でも生息が確認されているがこれは人為的な移入によるものとされている。
繁殖行動	産卵期は4～6月頃で、石や植物の茎の表面に卵を産みつけ、オスはその表面についたゴミなどを取り除いて管理する。
生息場所	モツゴよりも淀んだ水域に生息し、水面をヒシやジュンサイが覆うような池沼や水が緑っぽく濁っているような水域を好む。
食性	食性は雑食性で、底生動物や付着藻類などを食べる。
生息環境への配慮事項	本種の生息地には本来生息していなかった産卵期の早いモツゴがコイやフナの放流に混じって移入され、これらが本種の代わりに各地へ分布を広げている。また、池沼などの護岸がコンクリートになったことも本種減少の一因であり、各地で減少または絶滅が進んでいる。近縁のモツゴは産地により産卵期が異なり、琵琶湖産モツゴなど産卵期の早いものがとくに本種と競合するとされている。また現在わずかに残された生息地を永続的に保全することも必要だが、何らかの要因によりその生息地が失われてしまう可能性もあるため、生息地を分散させることも重要であり、早急な保全対策が望まれる。
その他	準絶滅危惧(新潟県RDB) 絶滅危惧 B類(環境省RDB)
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	